LGB の精神的健康とその関連要因についての心理学的研究

令和元年度　博士論文

筑波大学大学院　人間総合科学研究科

3 年制博士課程　ヒューマン・ケア科学専攻

学籍番号　201730370

佐藤　洋輔

指導教員　沢宮　容子　教授

目的

性的指向のマイノリティであるレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル（以下、LGB とする）は、その社会的なスティグマによって異性愛者よりも精神的健康に問題を抱えやすいことが報告されている。しかしわが国では LGB を対象とした心理学的研究の数は限られており、LGB の精神的健康については未解明な点が多い。そこで、わが国の LGB のメンタルヘルスの現状について理解し、心理学的支援のターゲットとなる要因を明らかにするため、以下の 3 つの目的を設定して研究を行なった。第一に、異性愛者と共通して精神的健康に影響をおよぼす一般心理過程の視点から、対人関係や認知的処理の要因について LGB と異性愛者の比較検討を行なった。第二に、社会的スティグマがもたらす影響に焦点を当てたマイノリティ・ストレスの視点から、LGB が体験するライフイベントと、異性愛者の LGB に対する態度について検討した。そして第三に、LGB の精神的健康を維持する要因として LGB アイデンティティに焦点を当て、LGB アイデンティティを構成する複数の要素が精神的健康とどのような関連を示すかについて検討した。

方法

本研究では上記の 3 つの目的を達成するため、4 つの研究を実施した。研究 1 では、LGB の大学生・大学院生 205 名、異性愛者の大学生・大学院生 1,125 名に対して質問紙調査・web 調査を実施し、対人関係要因（対人ストレス・ソーシャルサポート）、認知的処理（反すう）、精神的健康（抑うつ・不安）について LGB と異性愛者の傾向を比較し、さらに変数間の相互関係について検討を行なった。研究 2 では、LGB の大学生・大学院生 12 名に対して半構造化面接を実施し、LGB が体験する性的指向と関連したライフイベントについて尋ねた。面接から得られた語りについては、体験をいくつかのグループに分類したのち、体験の相互関係を検討した。研究 3 では異性愛者の大学生 356 名に対して質問紙調査を実施し、LGB に対する態度を性別・セクシュアリティについて比較したのち、LGB に対する態度と心理・社会的要因の関連について検討した。研究 4 では Mohr & Kendra (2011)の開発した Lesbian, Gay, and Bisexual Identity Scale の日本語版を作成したのち、LGB167 名に対して web 調査を実施して日本語版 LGB アイデンティティ・スケールの信頼性・妥当性を検証した。さらに、尺度から確認されたアイデンティティの次元について、信頼性・妥当性検証に利用したサンプルを用いて精神的健康との関連を検討した。

結果

研究 1 では、LGB は異性愛者よりも対人ストレス、反すうの得点が高く、家族から得られるソーシャルサポートの得点が低いことが示された。さらに、これらの要因について共分散構造分析を行なった結果、性的指向が LGB であることが対人ストレスと家族から得られるソーシャルサポートに影響をおよぼし、また対人ストレス・家族から得られるソーシャルサポートは反すうを介して精神的健康に影響を与えることが示唆された。研究 2 では、KJ 法を援用して分類した項目について数量化 iii 類とクラスター分析を実施した結果、「アイデンティティの受容度」と「体験の共通性」の 2 軸、および性的指向と関連した体験を示す「異性愛への同調・異性愛者的振る舞い」、「同性愛・両性愛的感情の肯定」、「内在化された同性愛嫌悪」、「偏見やスティグマの意識と、拒絶に対する恐れ」、「バイセクシュアル固有の体験」、「LGB アイデンティティの受容・確立」という 6 つのクラスターが抽出された。研

究 3 では LGB に対する態度は女性よりも男性の方が否定的であることが示され、またゲイに対する態度はレズビアンやバイセクシュアルの女性に対する態度よりも否定的であることが示唆された。また、男性において LGB に対する態度は性役割への態度や、同性愛に関する知識、LGB の友人の数と関連することが示された。研究 4 では日本語版 LGB アイデンティティ・スケールの信頼性・妥当性が確認され、8 つのアイデンティティの次元が確認された。またこれらの次元は、精神的健康の各指標に対してそれぞれ異なる関連を持つことが示唆された。

考察

本研究の 3 つの目的についてそれぞれ考察を行なった。第一に一般心理過程については、LGB が異性愛者よりもストレスフルな対人関係を経験していること、そして対人関係要因の差違が LGB のネガティブな認知的処理の働きを促進することで、精神的健康に影響をおよぼすプロセスが実証された。第二にマイノリティ・ストレスでは、LGB と異性愛者の両方の視点から検討を行なった結果、LGB が「内在化された同性愛嫌悪」や「他者から拒絶されることへの心配」といったマイノリティ・ストレスを経験していることや、LGB が体験するライフイベントはそのアイデンティティの受容度によって異なることが示唆された。また数量化 iii 類・クラスター分析により得られたクラスターからは、LGB のアイデンティティ発達を説明する古典的モデルと同様のクラスターの布置が確認された。さらに LGB の中でもバイセクシュアルはレズビアンやゲイとは異なる種類の体験をしていることが明らかとなった。一方で異性愛者に関する検討では、ゲイがレズビアンやバイセクシュアルと比べて偏見を抱かれやすいことが推察された。そしてその背景には異性愛者の有する同性愛についての知識や、性役割に対する態度が影響をおよぼしている可能性が示され、男性の LGB に対するスティグマを低減するためには男女の性役割を含めた多様性教育の実施、当事者と交流する機会を設けることが有効であると考えられた。第三に LGB アイデンティティについては、日本語版 LGB アイデンティティ・スケールが一定の信頼性・妥当性を有することが確認され、LGB アイデンティティを構成する要素として他者からの受容に対する懸念、アイデンティティの秘匿、アイデンティティのゆらぎ、内在化された同性愛嫌悪、困難なプロセス、アイデンティティへの優越感、アイデンティティの重要性、アイデンティティの肯定の 8 次元が示された。さらに、精神的健康との関連についてはアイデンティティの重要性を除いた 7 つの次元が人生満足度、状態自尊感情、抑うつ、ネガティブ感情に対してそれぞれ異なる影響を与えていた。特にアイデンティティの肯定は多くの精神的不健康の指標に対して負の影響を与えており、LGB アイデンティティにはスティグマに起因するネガティブな側面だけでなく、精神的健康を改善しうるポジティブな側面が存在することが示唆された。

結論

本研究では LGB の精神的健康について一般心理過程、マイノリティ・ストレス、LGB アイデンティティの 3 つの視点から検討を行なったことにより、LGB の精神的健康に関する総合的な知見を提供することができた。LGB への支援を実施する際には、個人に対する心理的な介入だけでなく、集団や社会に対する教育的介入など、複数の次元から並行的に介入を行なうことが重要であると指摘されている（Liao, Kashubeck-West, Weng, & Deitz, 2015）。本研究の結果からも、一般心理過程、マイノリティ・ストレス、LGB アイデンティティのそれぞれの次元において、介入のターゲットとなる複数の要因を提示することができたと言えるだろう。また本研究の知見をより深め、研究を発展させるために今後は次のような課

題に取り組んでいくことが重要であると考える。第一の課題は、本研究で明らかにした一般心理過程、マイノリティ・ストレス、LGB アイデンティティについて、その相互関係を明らかにすることである。一般心理過程とマイノリティ・ストレスは、ともに心理媒介フレームワークという包括的な枠組みの要素として位置づけられており、因果的な関係にあることが報告されている（Hatzenbuehlr, 2009）。本研究では両者の因果関係については実証していないが、今後は 2 つの過程における要因を同時に取り扱い、実証的研究を行なうことで心理媒介フレームワークの提示する多次元的な介入の重要性を示すことができると言えるだろう。第二の課題は、セクシュアリティの違いに焦点を当て、独自の体験やその影響について明らかにしていくことである。本研究では LGB を一つのグループとして扱い、その精神的健康について検討を進めてきた。しかし結果からは、バイセクシュアルのみが体験するライフイベントや、ゲイに対する否定的な態度の存在など、LGB の中でも日常生活の中で体験するスティグマや悩みはそれぞれ異なることが示唆された。そのため、今後の研究では精神的健康やそれに影響を与える要因についてセクシュアリティ間での共通点や相違点を明らかにすることが、全てのセクシュアリティにとってより適切な支援を提供するための鍵となることが考えられる。

引用文献

Hatzenbuehler, M. L. (2009). How does sexual minority stigma “get under the skin”? A psychological meditation framework *Psychological Bulletin, 135*, 707-730.

Liao, K. Y. H., Kashubeck-West, S., Weng, C. Y., & Deitz, C. (2015). Testing a mediation framework for the link between perceived discrimination and psychological distress among sexual minority individuals. Journal of Counseling Psychology, 62, 226-241.

Mohr, J. J., & Kendra, M. S. (2011). Revision and extension of a multidimensional measure of sexual minority identity: The Lesbian, Gay, and Bisexual Identity Scale. *Journal of counseling psychology, 58*, 234.